

平成28年度 学校評価アンケートの結果について

仙台市立遠見塚小学校

保護者の皆様の深い御理解と温かい御支援によりまして、充実した教育活動ができましたことに深く感謝申し上げます。いただきました御意見につきましては、教職員一同真摯に受け止め、新年度の学校運営や児童の指導に生かしてまいります。

A:十分達成されている B:概ね達成されている C:やや不十分 D:不十分

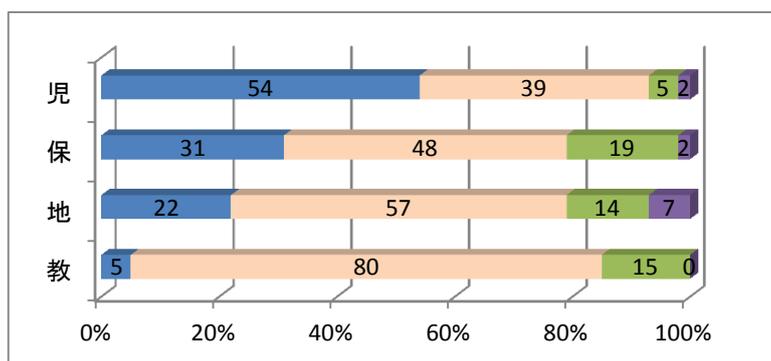
【在籍353名中、児童349名、保護者246名、地域15名、教職員21名回答】

1 協働型学校評価の重点目標「進んであいさつする子を育てる」について

① 友達や先生、お客様に、進んであいさつをしている。

	A	B	C	D
児	54	39	5	2
保	31	48	19	2
地	22	57	14	7
教	5	80	15	0

(%)

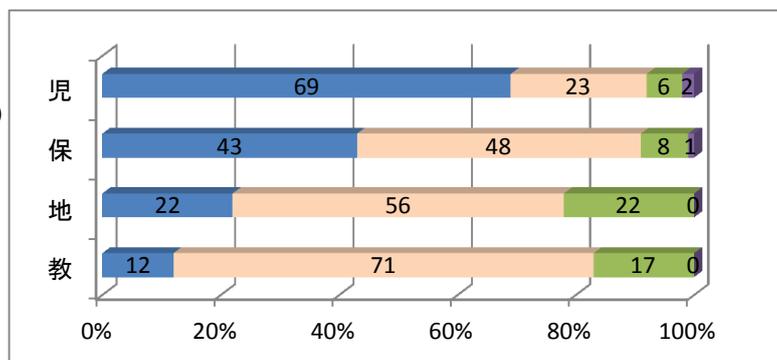


人と人との関わりが希薄となり、相手の気持ちを理解したり思いやったりすることが難しくなってきた時代。意思の疎通を図り、良好なコミュニケーションを築くことのできる人になってほしいとの願いから、協働型学校評価を新たに「心を込めてあいさつする子を育てる」とし三箇年の取組を始めました。その一年目の今年は、「進んであいさつする子を育てる」ことを重点目標に掲げ、学校・家庭・地域の三者がそれぞれの立場で子供たちを指導してまいりました。この①は、学校内での挨拶について自己評価したのですが、子供たちの93%は肯定的に評価（よくできた、まあまあできた）をしています。教職員からも「挨拶は良くなっている」という感想が聞かれるようになり、目標を概ね達成していると評価しています。しかし、しっかり定着させるには、これからも指導の継続が必要と考えています。

② 家族に、進んであいさつをしている。

	A	B	C	D
児	69	23	6	2
保	43	48	8	1
地	22	56	22	0
教	12	71	17	0

(%)

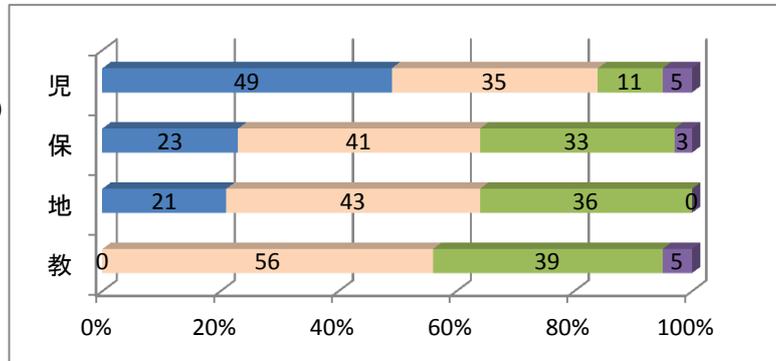


家庭での挨拶の様子について尋ねたものです。この項目でも子供たちの自己評価は非常に高く、Aの「よくできた」と答えたは7割に上ります。また、保護者の皆様の肯定的評価も91%と、子供たちの評価をほぼ裏付けるものとなっています。皆様のお声掛けに感謝いたします。これからも、よろしく願いいたします。

③ 近所の方や地域の方に、進んであいさつをしている。

	A	B	C	D
児	49	35	11	5
保	23	41	33	3
地	21	43	36	0
教	0	56	39	5

(%)



保護者の皆様や地域の皆様からの評価、御意見は分かれています。「朝、子供たちから挨拶をしてくれる。学校全体の取組や児童一人一人のめあてに向かって前向きに取り組んだ成果だと思う。」
 「挨拶運動はとても良い。名前を呼んで挨拶すると、とてもいい表情をするなあと感じている。」
 「元氣な挨拶が返ってくる。本当に『進んであいさつする子を育てる』が実践されていると感じている。」
 「学校外で、まるで面識のない子供たちからもよく挨拶される。とても良い指導がなされていると感じることが多い。」
 「交通当番のとき、子供たちに挨拶するとほとんどの子はきちんと挨拶をする。」等々、お褒めの言葉をたくさんいただきました。しかし、「登校時、半分ぐらいの子からしか挨拶されない。挨拶するときは、はっきりした言葉で言ってほしい。」
 「少子化の時代、公園や道などで会う機会も少ないのだが、会っても挨拶をされたことはない。」との御指摘もいただいております。見ず知らずの方に挨拶するのは、私たち大人でも勇気が要るものです。子供ならばなおさらのことだと思います。地域での挨拶が習慣化され、子供たち自身から自然に挨拶の言葉が発せられるよう、これからも指導を続けてまいります。御家庭、地域の皆様からも、挨拶のお声掛けをよろしくお願いたします。そして、挨拶ができた子は、是非、褒めてあげてください。

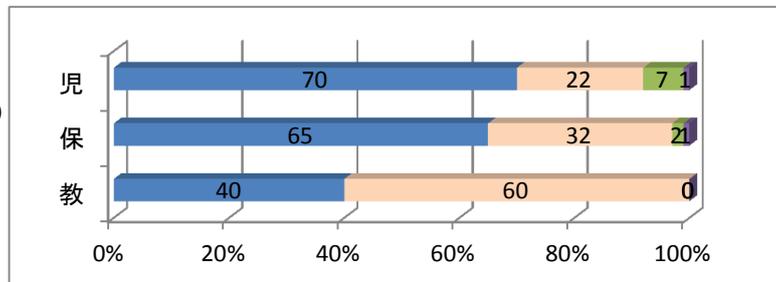
2 学校生活や家庭生活について

【やさしい子】

① 楽しく学校生活を送っている。

	A	B	C	D
児	70	22	7	1
保	65	32	2	1
教	40	60	0	0

(%)

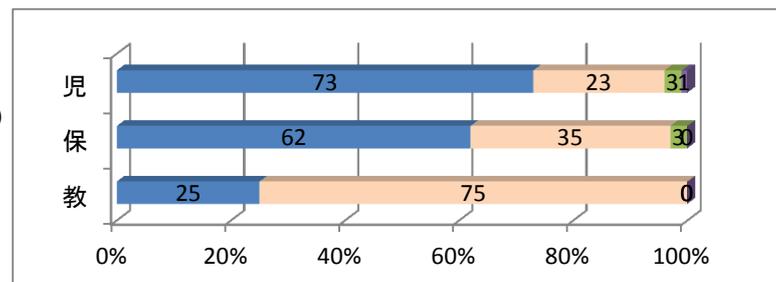


昨年度の「学校評価のまとめ」でもお伝えいたしましたが、「勉強が分かる。興味深い勉強ができる。やりがいのある活動がある。活躍できる場がある。仲の良い友達がいる。みんなと遊ぶことができる。自分の居場所がある。等々」、学校は、子供たちに多くの楽しさや喜びを与えられる場でありたいと考えています。お陰をもちまして、今年度も、多くの子供たちが「学校は楽しい」と、高い評価をしてくれました。そして、保護者の皆様も、子供たちが楽しく生活していることを同じように感じ取っていただいていることが分かりました。しかし、少数ではありますが、否定的評価をしている子がいることも事実です。学校では、その子供たちに配慮しながら指導を続けているところです。進級に伴う引継もしっかり行ってまいります。

② 友達と仲良くしている。

	A	B	C	D
児	73	23	3	1
保	62	35	3	0
教	25	75	0	0

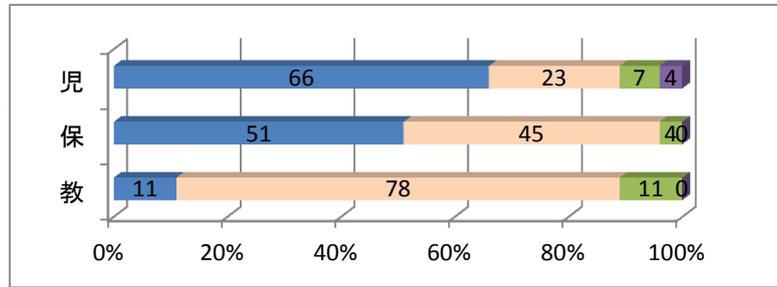
(%)



全質問中、子供たちの評価が最も高かった項目です。子供たちのこの思いは、本校の目指す児童像「やさしい子」の実現のための礎になるものと考えています。これからも「ともにおもいやり みんなで創ろう 遠見塚」を合言葉に、道徳教育を要とし、ソーシャルスキルトレーニング、Q-U調査やいじめアンケート調査を取り入れた学級経営、たてわり活動、交流学习、なわとび大会やドッジボール大会、古墳祭りや学習発表会等々の各種行事を行いながら、心のふれあいを大切にしたい教育を進めてまいります。

③ 友達の良いところを理解し、認めている。

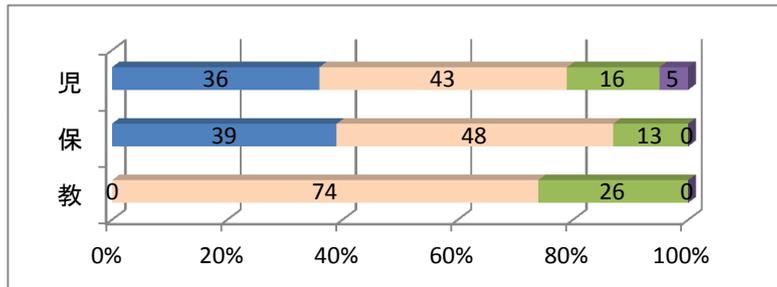
	A	B	C	D	(%)
児	66	23	7	4	
保	51	45	4	0	
教	11	78	11	0	



約9割の子供たちが「友達の良いところを知っている。」と答えています。自分の良さを知り、自己肯定感を高め、自分を大切にする気持ちを育みながら、友達の良さや個性を認め、尊重する心も育てていきたいと考えています。

④ 友達や家族の役に立つことをしている。

	A	B	C	D	(%)
児	36	43	16	5	
保	39	48	13	0	
教	0	74	26	0	

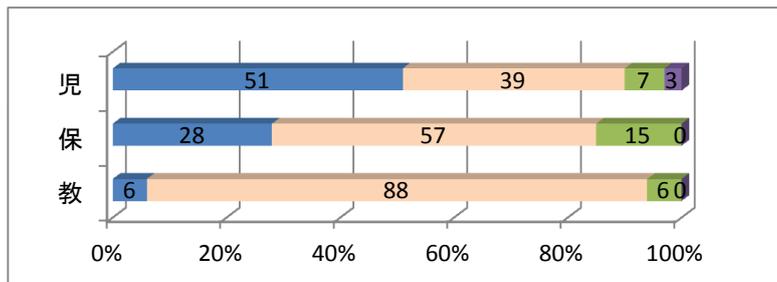


やや二極化の傾向が見られますが、多くの子供たちは、手伝い、係や当番の活動など、様々な場面で一生懸命取り組んでいます。また、優しい言葉を掛け励ましたり、愉快的言動で楽しませたりと、自分では気付いていないところでも友達や家族の役に立っているところがたくさんあります。学校、家庭、地域、さらには広く社会の中で、人のために役に立つことを進んで行おうとする態度は大切なことです。主体的に社会に関わり、共に生きる力を育てていきたいと考えています。

【進んで学ぶ子】

⑤ 学習内容を理解している。

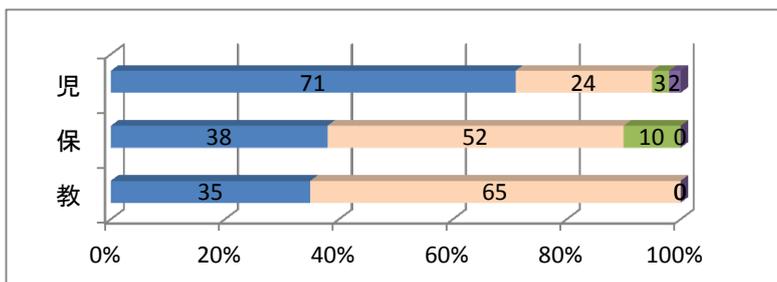
	A	B	C	D	(%)
児	51	39	7	3	
保	28	57	15	0	
教	6	88	6	0	



遠見塚小学校では、高学年一部教科担任制を取り入れています。また、今年度は、これまで5・6年生で行っていた算数科の少人数指導を4年生でも実施したいと考え、指導体制を整えました。それぞれの学年では、学習内容に応じ、様々な外部講師を招聘し専門的な特別授業や校外学習も取り入れられました。1年生では、学習・生活サポーターとして、保護者の皆様や地域の皆様に御支援をいただきました。放課後の学習会「寺子屋」や夏休みの「サマースクール」など、自主的な学習の機会も提供してきました。これからも、「分かる授業」「きめ細かな授業」に努め、子供たち一人一人に基礎的知識・技能を身に付けさせ、確かな学力を育てまいります。御家庭でも、宿題や家庭学習などを通して、学習習慣の確立に御協力いただきますようお願いいたします。

⑥ 勉強ができるようになると頑張っている。

	A	B	C	D	(%)
児	71	24	3	2	
保	38	52	10	0	
教	35	65	0	0	

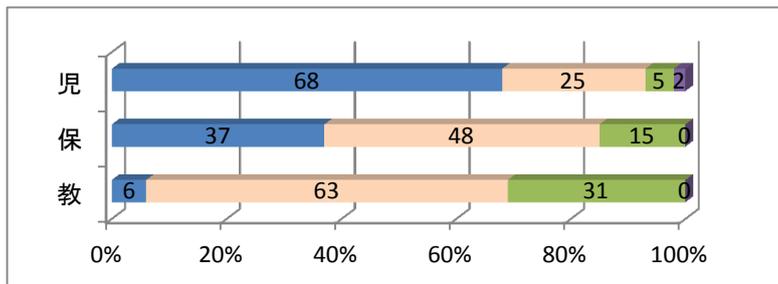


子供たちの自己評価が非常に高かった項目です。本校の子供たちは、勉強に一生懸命取り組んでいることが分かります。また、学習意欲が高いと捉えることができるとも考えています。学習意欲は、学力向上を支える太い柱です。この意欲をさらに大きく膨らませ、学習に主体的に取り組んでいけるよう、今後も魅力のある授業を展開してまいります。

⑦ 授業中、先生や友達の話をしている。

	A	B	C	D
児	68	25	5	2
保	37	48	15	0
教	6	63	31	0

(%)

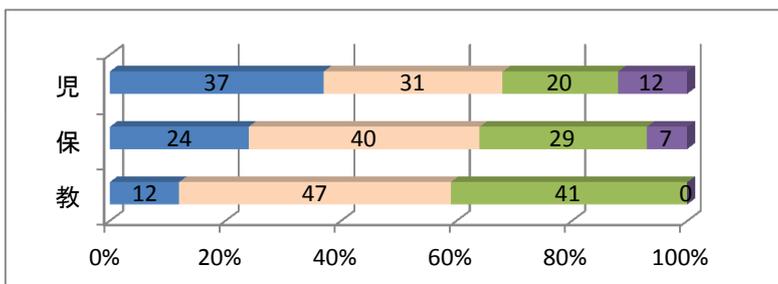


この項目でも、子供たちは高い評価をしています。しかし、教職員は少し異なった評価をしています。これは、「話の聞き方」の捉え方の相違によるものと思われます。子供本人は「ちゃんと聞いている」と思っている、その「聞き方」が学習のルールに則っていない場合もあるからです。この点は、まだまだ個人差があり、継続指導をしています。

⑧ 授業中、考えを発表しようと手を挙げている。

	A	B	C	D
児	37	31	20	12
保	24	40	29	7
教	12	47	41	0

(%)

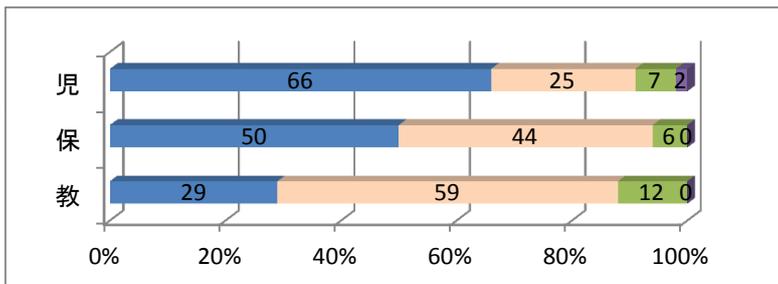


子供たちの肯定的評価が最も低かったところです。自分の意見を持ち、相手に伝え、考えを共有し合ったり、深め合ったりすることは、学習理解を確かなものにするための大切な方法でもあります。「間違っても大丈夫」と安心して発表できるよう、認め合う学級づくり、授業づくりを進めてまいります。

⑨ 御家庭で、宿題や家庭学習をしている。

	A	B	C	D
児	66	25	7	2
保	50	44	6	0
教	29	59	12	0

(%)



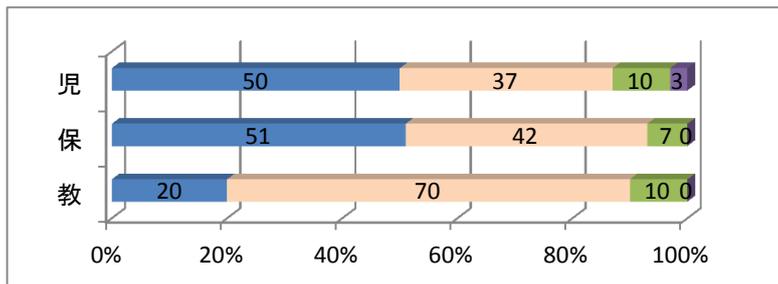
約9割の子供たちは、毎日、宿題や家庭学習に取り組んでいます。しかし、残念なことに残りの1割は、「あまりできなかった、できなかった」と答えています。宿題は、学習定着のために練習を重ねさせたいものや、これから学習する内容の理解を助けるものなどを課題としています。また、家庭学習は、本校では4年生の後半から自主的な取組を奨励していますが、やはり、これも学力向上に大きく寄与するものと考えています。保護者の皆様には大変な御負担をお掛けいたしますが、学校の学習同様、家庭での学習も重要であることを御理解いただき、子供たちにお声掛けいただきますようお願いいたします。

【たくましい子】

⑩ 学校のきまりを守っている。

	A	B	C	D
児	50	37	10	3
保	51	42	7	0
教	20	70	10	0

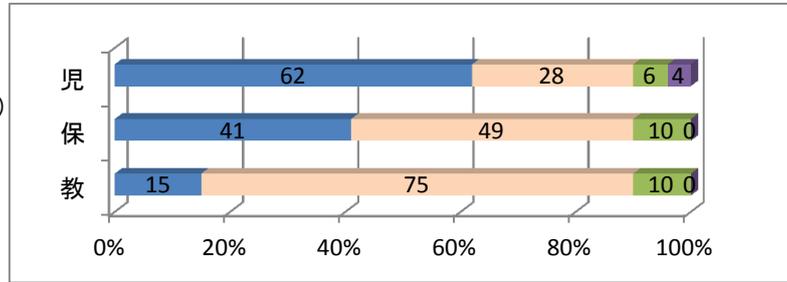
(%)



心身共に健康な生活を送る上で、基本的な生活習慣を身に付けたり、学校のきまりや生活目標などを守ったりすることはとても大切なことです。これからも、保護者の皆様、地域の皆様と連携・協力し、健全育成に努めてまいります。

⑪ けがをしないように気を付けている。

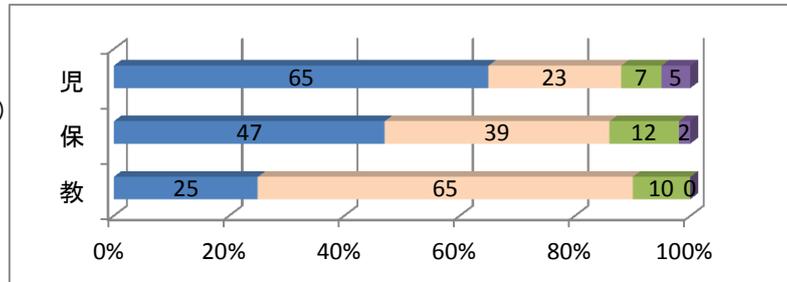
	A	B	C	D	(%)
児	62	28	6	4	
保	41	49	10	0	
教	15	75	10	0	



各教科，総合的な学習の時間，特別活動，道徳等の学習を通して，日常生活の中に潜んでいるけがや病気の危険を予知したり，危険を回避したりする能力を高める指導を行っています。併せて，地震や大雨などの自然災害が起こったとき，自らの安全を確保したり（自助），他の人や地域の力となったり（共助）する防災対応力も指導しているところです。

⑫ 外遊びやスポーツをしている。

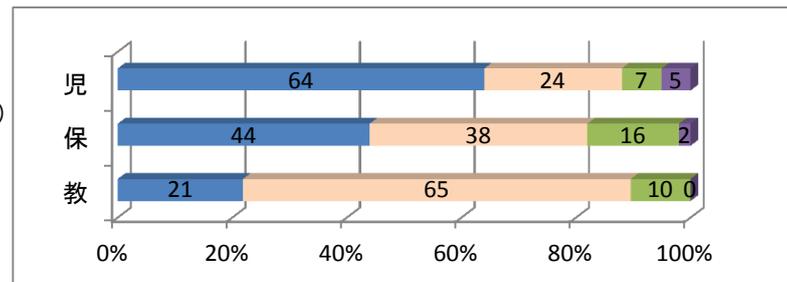
	A	B	C	D	(%)
児	65	23	7	5	
保	47	39	12	2	
教	25	65	10	0	



子供たちを取り巻く環境や生活の変化は，体力や運動能力の低下，スポーツや運動をする機会の減少，偏った栄養摂取など食生活の乱れ，夜型の生活による睡眠不足やメディア接触時間の増加など，健全な発育・発達に様々な影響を与えていると言われます。本校では，保護者の皆様の御協力をいただきながら，望ましい食習慣や生活習慣を身に付けさせる学習を取り入れたり，運動に親しむ意識付けや環境整備を行ったりしながら，子供たちが毎日を明るく，楽しく，生き生きと過ごすことができるよう，健康教育の充実に取り組んでいます。

⑬ 目標を持って頑張っていることがある。

	A	B	C	D	(%)
児	64	24	7	5	
保	44	38	16	2	
教	21	65	10	0	



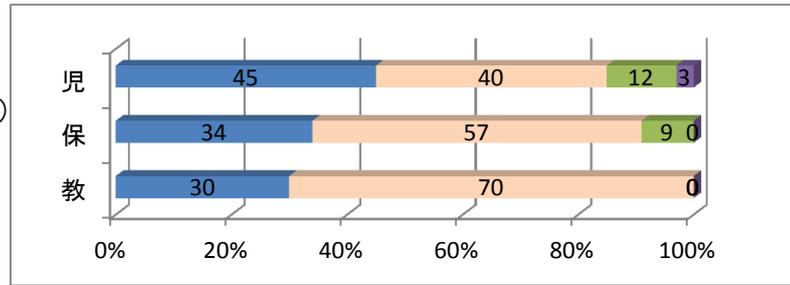
校長は，常々，子供たちに「三つのC（Chance, Challenge, Change）で進もう」という話をしていきます。「目の前にはいつもチャンスがある。そのチャンスに果敢に挑戦し，自分の力を高めていこう。そして，自分を変え，成長していこう。一人一人が変われば，学校も変わっていく。」という内容です。子供たちは，「進んであいさつする。」「漢字の練習を頑張る。」「劇のとき，大きい声でせりふを言う。」「なわとび大会で記録を更新する。」等々，各々が，その時々，目標・めあてを持って頑張っています。学校は，保護者の皆様，地域の皆様と共に，そんな子供たちをいつも励まし，支援し続けてまいります。

3 いじめ対策について

① 学校は、いじめの未然防止に向けた取組を適切に行っている。

	A	B	C	D
児	45	40	12	3
保	34	57	9	0
教	30	70	0	0

(%)

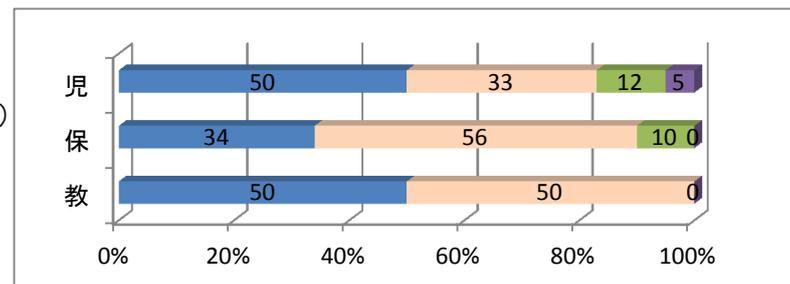


「いじめ防止」を喫緊の課題と受け止め、いじめは、どの学校でも、どの子供にも起こりうる問題であるという危機意識を持ち、教職員が一丸となり、未然防止、早期発見と早期対応に取り組んでいます。仙台市教育委員会が進める「いじめ防止『きずな』キャンペーン」や「仙台市いじめ実態把握調査」の実施をはじめ、本校独自のアンケート調査を行い、個別の聴き取りや相談などを行っています。これからも、「いじめは絶対に許さない」という毅然とした態度で臨み、いじめ根絶に全力を尽くします。また、「やさしい子」の項でも述べましたが、自分の良さを知り、自己肯定感や自己有用感を獲得させながら、友達の良さや個性を認め、尊重し、生命を大切にする心や他者を思いやる心を育む教育を推進してまいります。

② 学校は、いじめが起きたとき、適切に対応している。

	A	B	C	D
児	50	33	12	5
保	34	56	10	0
教	50	50		0

(%)



未然防止に万全を尽くしてはおりますが、万が一、子供たちの様子からその兆候を認めたり、情報を得たりしたときは、速やかに、いじめを受けた子供の保護・安全確保を行います。併せて、校長を中心に全教職員で対応方針を検討、事実を正確かつ具体的に聴き取り、事実を確定します。被害側と加害側の双方の保護者へ丁寧に事実を説明し、学校の指導方針をお示しながら保護者の御意向を確認します。いじめを行った子供には、深い内省を促し、心から反省する気持ちを引き出す指導を行います。その後も、指導の効果を確かめながら経過観察を行うとともに、成長を促す指導・支援を行います。進級に際しては、全教職員で改めて共通理解を図ります。